

[長崎市理財部資産経営室からのお知らせです。]

緑が丘・淵地区の公共施設のあり方を考える市民対話《かわら版》

❀ 第1回 開催報告 ❀



ご参加いただいた皆さま
ありがとうございました。

日時 平成30年1月28日(日) 14:00~16:00

場所 淵地区ふれあいセンター

参加者 地域の皆さん 34人

人口減少や少子高齢化が進む中であっても暮らしやすいまちであり続けるために、緑が丘・淵地区にある公共施設はこれからどうあったら良いのか・・・

将来に向けた公共施設のあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思い、市民対話を開催しました。

はじめに いま起きている“変化”と状況

長崎市から、人口減少社会の到来や、少子高齢化の進展など、「いま起きている“変化”と状況」についてお話ししました。

公共施設が古くなってきている

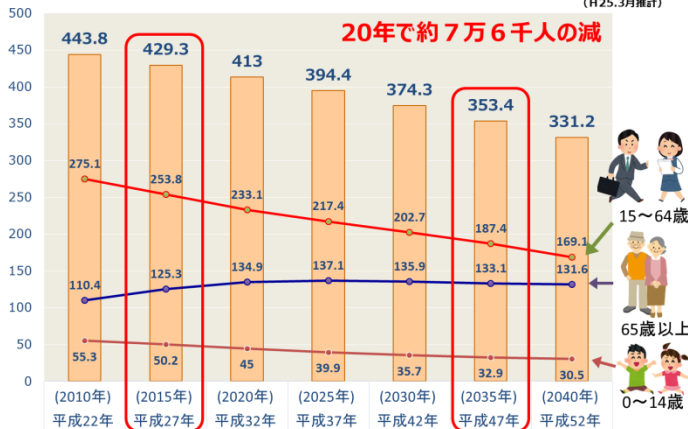
- ・市の公共施設のうち、全体の半分以上が築30年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいます。
- ・今後、修理や建替えの時期が一斉にやってきます。

人口減少・少子高齢化が進んでいる

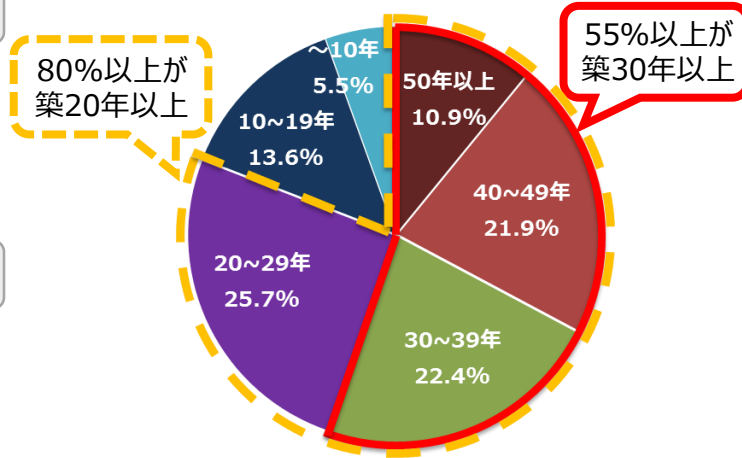
- ・長崎市の人口は、今後20年間で約7.6万人の減少が予想され、施設の利用者も減少していくことが予想されます。
- ・15~64歳のいわゆる「働く世代」の人口が大きく減少して**税収が減少することが予想**されます。
- ・今後も高齢化が進み、**福祉や医療にあてる費用が増えることが予想**されます。
- ・このため、**公共施設の修理や建替えにあてる費用は限られてしまいます。**

<人口の将来予想>

資料：国立社会保障・人口問題研究所 (H25.3月推計)



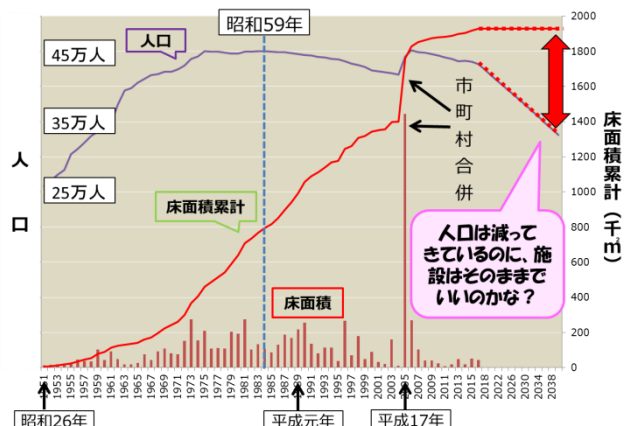
<施設の築年数と施設の量(床面積)の割合>



人口は減少しているのに、施設は多いまま

- ・長崎市の人口(紫の線)は、昭和59年にピークに減少していますが、**施設の量※床面積(赤の線)**は増え続けています。
- ・**今ある施設を全て持ち続けることが必要でしょうか？**

<施設の床面積と人口の移り変わり>



はじめに 時代の変化に対応できる公共施設の見直し

長崎市から、「いま起きている“変化”と状況」に伴い、なぜ公共施設のあり方を見直す必要があるのかお話ししました。

ところで…

建物の生涯では、どんなお金がかかるかご存知ですか？

建物にかかるお金は、初めに建物を建てるお金だけではありません。

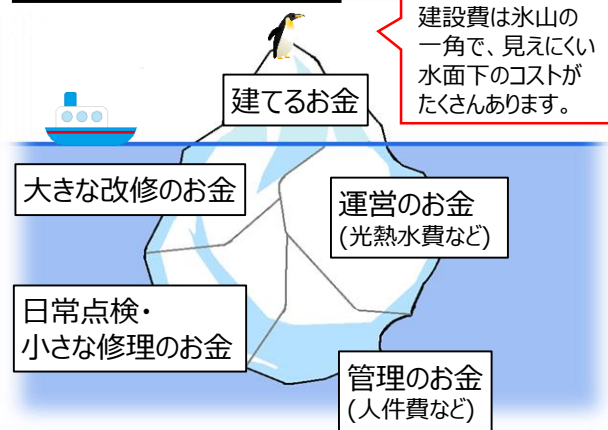
建てた後も、建物の管理・運営のための光熱水費や人件費、安全のための日常点検・小さな修理のお金が必要になります。

また、建物の老朽化に伴い、定期的に大きな改修のお金もかかります。

一般的に、建物を建てるお金の4～5倍のお金が、建てた後にかかるといわれています。

建物のあり方を考えるときには**生涯にかかるお金全体を考える必要があります。**

建物の生涯に必要なお金



公共施設を取り巻く時代の変化

長崎市の人口は、20年後には7.6万人(18%)も減少すると予想されているんだ。

人口減少

公共施設の
利用者の減少

なのに

公共施設の量は
増え続ける

公共施設はこのままでいいのでしょうか？

少子高齢化

医療・介護など福祉
にあてる予算の増大

なのに

古くなった公共施設の
修理に費用がかかる

64歳以下の人口は大きく減っていき、税収(市の収入)が減っていくよ。



市の施設の半分以上が、築30年以上で老朽化しているよ。これからますます修理の費用がかかるよ。

人は減っていくのに、施設の量はそのままだと、使われない施設が増えちゃうね。

長崎市が

『人口が減っても、暮らしやすいまち』であり続けるために
今、公共施設の使い方の**見直し**が必要です！



作業Ⅰ

施設の「見直し」を考える

見直しの必要性を共有したうえで、施設の見直しについて考えました。

○どういった状況の施設を見直すべきか

(例：利用されていない、老朽化している)

○どんな取組み(見直し)ができるか(例：集約、移転)

を、書き出しながら、協議しました。

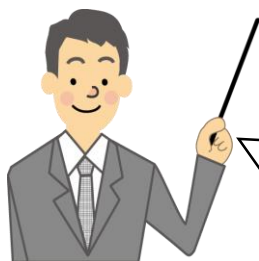


公共施設のかしこい見直し方

長崎市から、どのように公共施設を見直していくかについて、お話ししました。

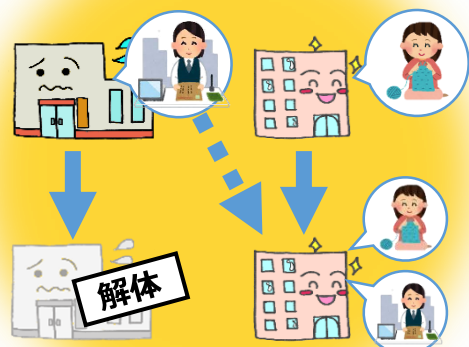
まず大切なことは…

**施設を見直すことは、
行政サービスを無くすことではありません。**



施設の見直しとは、あくまでも施設のあり方や使い方を見直すということです。仮に施設が減っても、そこで行われていた生活に必要なサービスを無くすことではありません。

<工夫した使い方の例>



建物は減っても… サービスは残る

公共施設を見直す時の視点

公共施設の使い方を見直す時には、次の7つの視点で考えていきます。

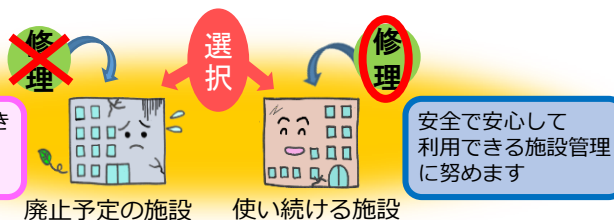


見直しの手法

見直しには、大きく3つの手法があります。

手法1 使い続ける施設と廃止予定の施設を分けて、使い続ける期間に合わせた適切な修理をする

廃止予定なのに大きな修理をするのは、もったいないね！



廃止予定の施設 使い続ける施設

手法2 ゆずりあいと工夫



工夫することで建物が減っても活動は続けられ新たな交流も生まれます。

手法3 新たな財源を確保する

- ◇使っていない土地や建物を売ったり、貸したりする(遊休資産の活用)
- ◇民間と連携・協力し、より良い行政サービスを効率的に提供する

作業Ⅱ

施設の利用状況を確認

地域の公共施設をどのくらい使っているか、あらためて振り返りました。

- ①施設の名前
- ②どんな目的で利用しているか。
- ③利用の頻度(週に1回、月に1回など)を、書き出しました。

見直す施設を考える

これまでの長崎市からの話や、「作業Ⅰ」で協議した内容を踏まえ、地区にあるどの施設を見直すべきか、意見を出しあいました。

各班協議で出された主な意見

施設を見直す時の視点や、どのような取り組みができるかを考え、見直すべき施設をイメージしていただきました。

- ・施設にエレベーターがなくても利用しやすいよう、エレベーターが必要な人向けの機能を、施設の1階に配置する。
- ・維持費がかかる施設や、改修が必要な時期になった施設については、見直す必要がある。

1班



- ・入居者が少なくなった公営住宅は見直す必要がある。
- ・学校は地域に一番ある施設なので、もっと活用するよう考える必要がある。
- ・施設の立地を考えるうえで、交通手段を考慮する必要がある。

2班

3班



- ・淵地区ふれあいセンターは、地域の拠点として活用する必要がある。
- ・必要に応じた建物とするために、縮小建替えや集約建替えが考えられる。
- ・必要な機能は残すべき。
- ・若い人が住みたくなるよう、まちづくりの視点で施設の配置を考えるべき。

4班



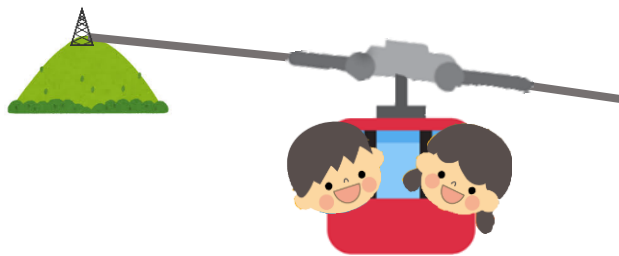
- ・市営住宅は集約化や高層化して建替え、余った土地は売るなど活用することができるのではないか。
- ・子ども向けの施設と高齢者向けの施設を併設することで、多世代交流が図られる。
- ・施設を見直すうえで、駐車場やトイレなどの設備は重要。

5班



- ・古い施設やバリアフリー化がなされていない施設は見直しが必要。
- ・近隣にある公共施設同士で連携して駐車場を確保してはどうか。
- ・施設の利用方法をわかりやすくすることや、施設でできる手続きなどを充実させれば、利用が増えるのではないか。

6班



【講評】（アドバイザー：首都大学東京 都市環境学部 讃岐 亮 先生）

- 行政と住民が共同で地域を作っていくという視点が大切です。そういう視点をもって、2回目以降の対話も取り組んでほしいと思います。
- 皆さんが経営者の立場になって考えてもらうと、財源は限られているので、やむを得ずカットしなければならない部分も必ずあります。これを行政に当てはめれば、皆さんは納税者なので、お金の使い道が適正かという視点で、まちを存続させるためにどこにどうお金を使うかを考えないといけません。
- 全ての施設を新しくつくる時代ではないということも、しっかりと考えてほしいと思います。

次回の対話では・・・

長崎市の公共施設について、まず**基本的な配置の考え方**をお示しし、第1回で出された意見を参考に、市の方で検討した**この地区の施設のあり方の見直し案**をお示ししたいと考えています。

それに対する皆さんのご意見をお聞かせください。

次回の対話

第2回 日時：平成30年2月17日（土） 14：00～16：00

場所：長崎県営野球場(ビッグN)第1会議室

※詳しい場所は、別紙案内図をご覧ください

※第1回目とは場所が違います！

◆お問い合わせ：長崎市理財部資産経営室（☎直通：095-829-1412）